人権平和資料館だより　　2016 年（平成 28 年）9 月

HUMAN RIGHTS ＆ PEACE　第 241 号

〒720-0061　福山市丸之内 1-1-1
TEL 924-6789　FAX 924-6850
jinken-heiwa-shiryoukan@city.fukuyama.hiroshima.jp

人権と平和は
21 世紀のキーワード

企画展「芸能と差別」
～もうひとつの日本の歴史～
期間　9月13日（火）～11月27日（日）

前期　9月13日(火)～10月16日(日)　後期　10月19日(水)～11月 27 日(日)

太鼓の「本張り」

日本の歴史をたどっていくと，歴史の表舞台にはほとんど登場しないにもかかわらず，日本の文化や伝統を支えてきた人々の存在に気がつきます。現在，能や歌舞伎は，日本の伝統文化の代表格といえますが，舞台の裏には，それを支える多くの「裏方」がいます。歴史にも，多くの「裏方」がいるのです。

文化財に指定された太鼓は全国各地にありますが，それを作った職人が，「人間国宝」に指定されたことはあったでしょうか。鍛冶の作った刀が文化財に指定されても，職人の名前は銘に刻まれているだけで，生没年ですら不明という場合が少なくありません。彼らも，歴史の「裏方」なのです。

今回の企画展は，**絵本「もうひとつの日本の歴史」**から，社会的差別が比較的希薄であった古代社会からスタートし，差別の原型が現れる中世，そして，民衆の居住地や職業が固定され，身分制度が確立するのに並行して，「被差別身分」が形成される近世までをパネルで紹介していきます。

そして，近代・現代には，従来からの差別に，「貧困」という新たな差別が付け加えられましたが，こうした歴史をたどりつつ，「差別からの解放」をめざす社会運動についても考えていきます。

えびす人形

もうひとつ，今回の企画展では，**「阿波木偶箱まわし保存会（あわでこはこまわしほぞんかい）」**の活動を紹介します。それは祝福芸としての「三番叟まわし」と，人形芝居を路傍や民家の庭先などで演じた娯楽の芸「箱廻し」の二つです。

「箱廻し」文化の継承には，社会問題としての差別を克服しなければならないという課題が伴ないます。「保存会」では，「部落差別によって消えようとしていた伝統芸を受け継ぐことが，差別をなくすことにつながる」との思いで活動を続けています。その作業は，古くから日本の社会に存在した多様な職能人に光をあてることにもつながり，歴史的・文化的にも意義深いものがあります。2015 年 2 月には，阿波木偶箱まわし「三番叟まわし」が，徳島県の無形民俗文化財に指定されました。

【福山市人権平和資料館　企画展関連行事等について（お知らせ）】

講演「都の文化・光と影 ～都の祝福芸能者たち～」

入場無料

「京十二ヶ月風俗図巻」から傀儡師

■日　時　10 月 2 日（日）
午後 1 時 30 分～3 時

■講　師　山路興造さん（世界人権問題研究センター）

■場　所　福山市人権平和資料館　2 階企画展示室

■内　容　さまざまな祝福芸能者の歴史や職能などについて，人権の視点から学ぶ。

講演と実演「福を届ける阿波木偶箱（あわでこはこ）まわし」

■日　時　10 月 23 日（日）午後 1 時 30 分～3 時

■出　演　阿波木偶箱まわし保存会

入場無料

■場　所　福山市人権平和資料館　2 階企画展示室

＊門付け「三番叟まわし」

「三番叟まわし」は，文政（1804～1830）の頃から記録されている，人形を遣（つか）う門付け（かどづけ）です。

訪れた家では，最初に荒神（こうじん：台所近くに祀られ，火伏せの神，家の守護神）を拝み，御幣をきって祀ります。その後，千歳（せんざい），翁（おきな），三番叟（さんばそう），えびすの 4 体の人形を舞わします。一年の無病息災，家内安全，大漁万作，商売繁盛を祈る意味があるとされます。しかし，1960 年代頃から徳島県西部の一部地域を残して見られなくなりました。

左から「翁」「えびす」「三番叟」「千歳」

「阿波鳴」（版画）

＊大道芸「箱まわし」

「箱廻し」は，浄瑠璃を語りながら数体の人形を一人遣いで交互に操り，路傍や広場で演じる大道芸です。かつては，「三番叟まわし」を行っていた芸人が門付けの時期が終わると「箱廻し」の巡業に出ていたとされます。芸人は，二人か三人が一組となり，二つの櫃（ひつ）に 4，5 体の人形を入れ，全国各地を巡業しました。

人気の演目は，「『傾城阿波の鳴門』巡礼唄の段」，「『絵本太功記』尼崎の段」などで，観客の求めに応じてさまざまな演目を自在に演じたと言われます。「箱廻し」芸人は，明治の初めには 200 人を数えたと言われていますが，太平洋戦争が始まる頃には，ほとんど姿を消しました。